

平成24年度 村民意見交換会

世界遺産に関して、自然の保全や村民生活（観光・産業を含む）に関わる幅広い議論を行った。



平成25年度 村民意見交換会

前年の特に関心の高かったテーマ（観光、環境教育、新たな外来種の拡散防止対策）に絞って、議論を深めた。

平成25年度 地域連絡会議

村民生活・産業に関わりの深いオオコウモリ、ネズミについて早急な対応が必要との意見が出た。

平成26年度

新たな外来種の拡散の問題や環境教育、オオコウモリやネズミといった、村民生活・産業に関わりの深いテーマをより深める。

新たな外来種の拡散防止
（非意図的拡散）

新たな外来種の拡散防止
（愛玩動物）

環境教育

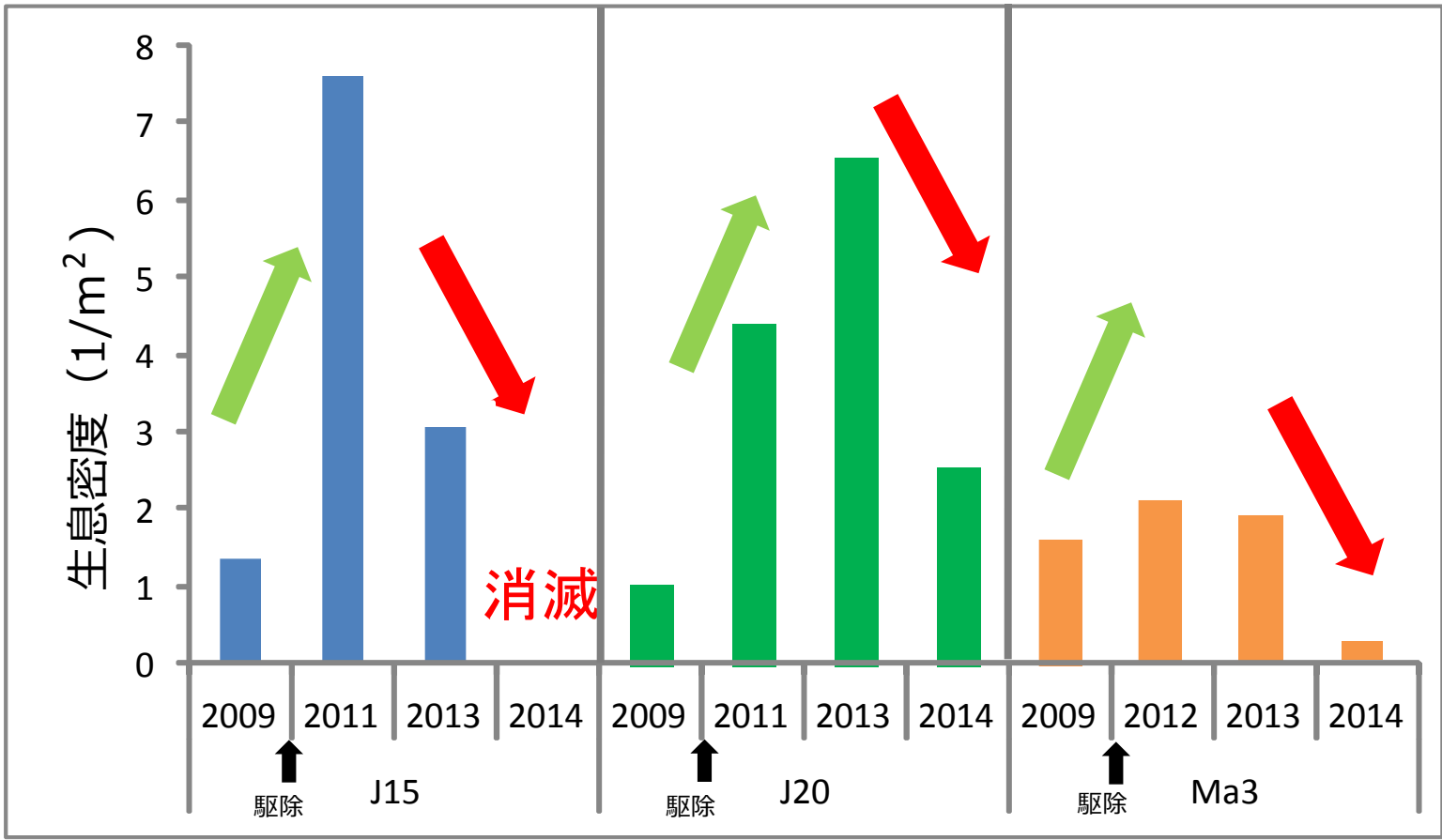
オオコウモリ

外来ネズミ

①陸産貝類の保全（兄島）カタツムリの現状

＜兄島のネズミ駆除実施後における陸産貝類の生息密度の回復＞
2009年以降、しだいに生息密度が高くなったが、2014年度に急激に悪化した。

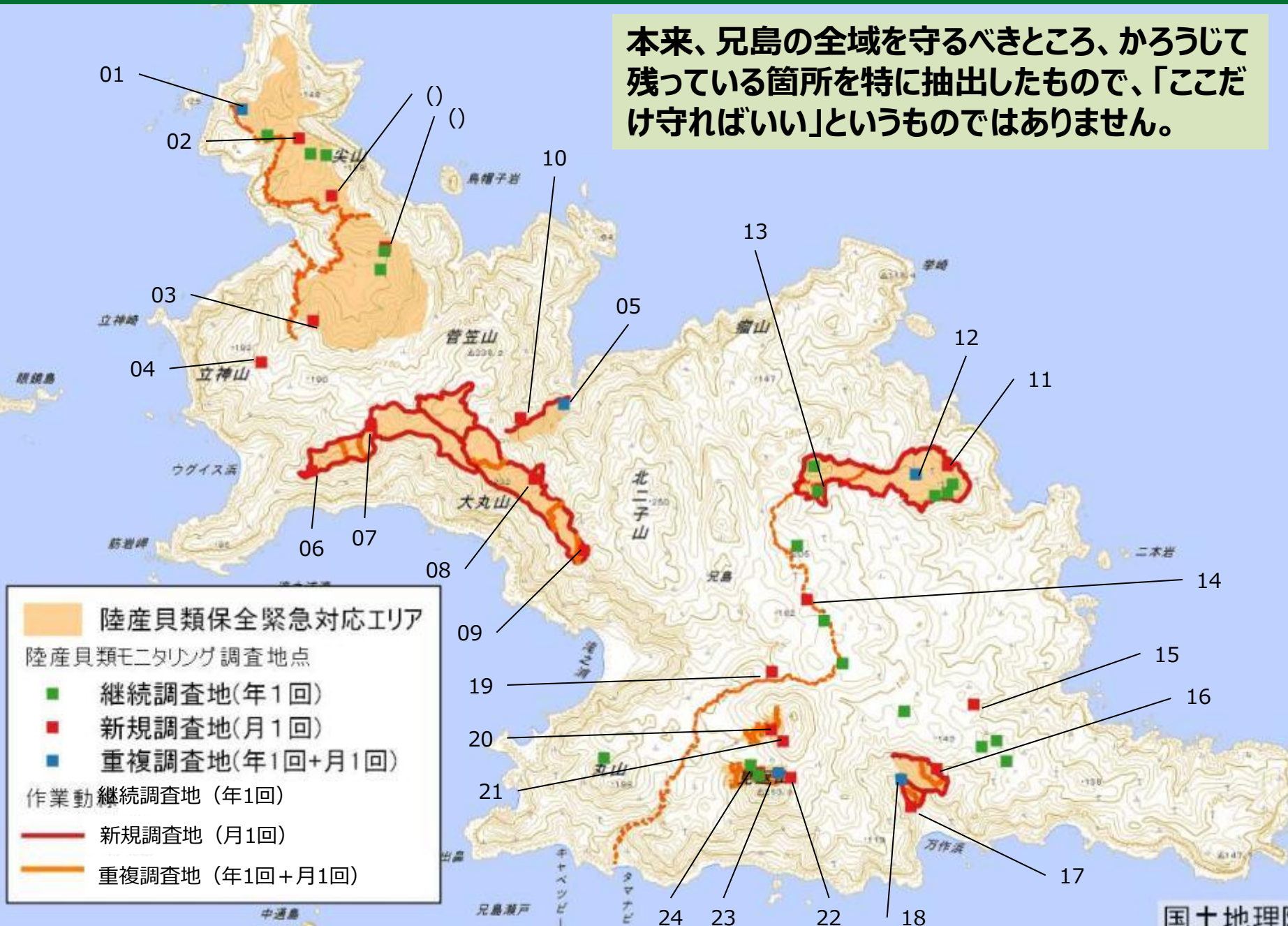
カタマイマイ属の生息密度



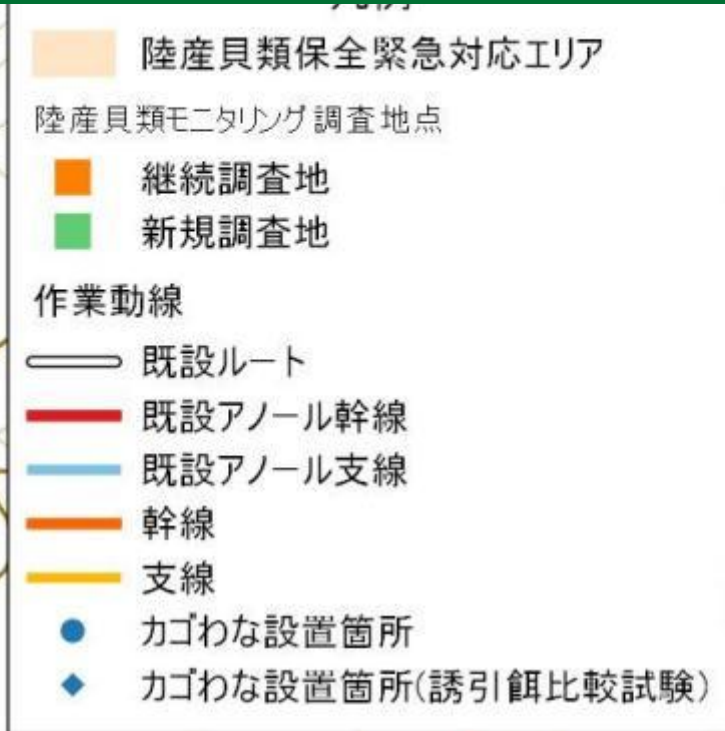
環境省調査、東北大調査

①陸産貝類の保全（兄島）『保全エリアの設定』

本来、兄島の全域を守るべきところ、かろうじて残っている箇所を特に抽出したもので、「ここだけ守ればいい」というものではありません。



①陸産貝類の保全（兄島）『保全ユニットの設定』



21 (貝・カメラ)
ビロウ、広葉樹が含まれる
乾性林

22 (貝・)
タコノキを含む乾性低木林

23 (貝・カメラ)
ビロウを中心とした湿性林



①陸産貝類の保全（兄島）『調査プロットの設定』

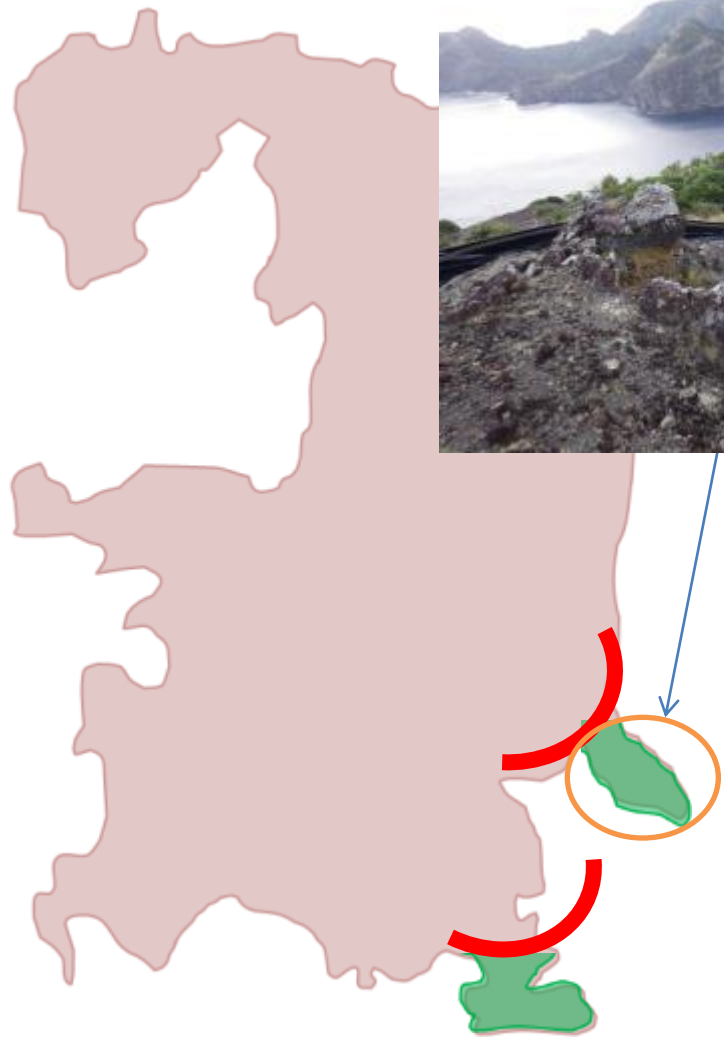


調査プロットは保全エリア
全体の一部。調査できる人
材の育成が急務。

なお、各プロットは、20m
× 20mの水糸を引いて、
調査値であることを明示



①父陸産貝類の保全（父島） プラナリアの侵入の防止と域外保全



陸産貝類の域外保全

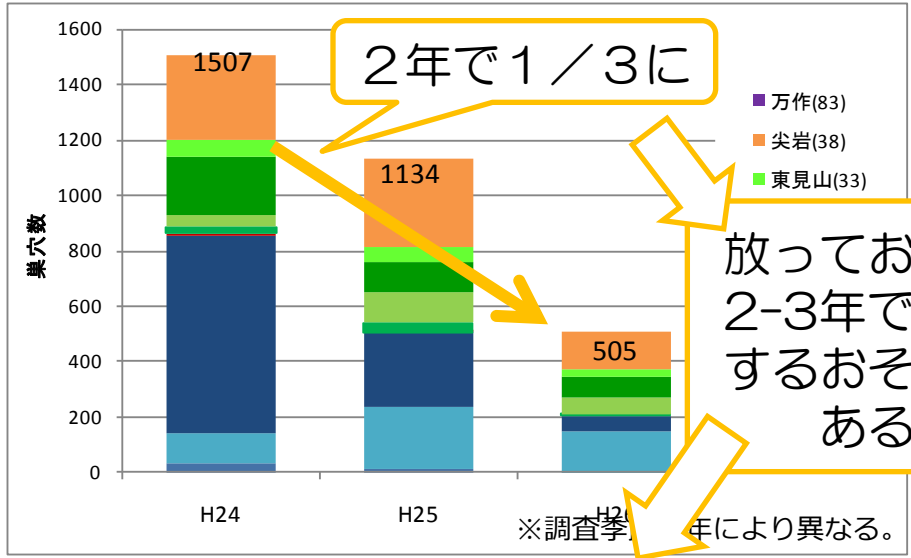


父島島内でプラナリアが確認されていないのはわずか。このうち、H25年10月に烏山地域でプラナリアが確認された

環境省において、烏山での柵の整備のほか、父島島内の激減している陸産貝類を野外から緊急的に回収し、保全目的の移植も視野に入れつつ、域外保全を行っている。

②希少昆虫類の保全：オガサワラハンミョウの危機的状況

兄島10地点（定点）における巣穴数の推移



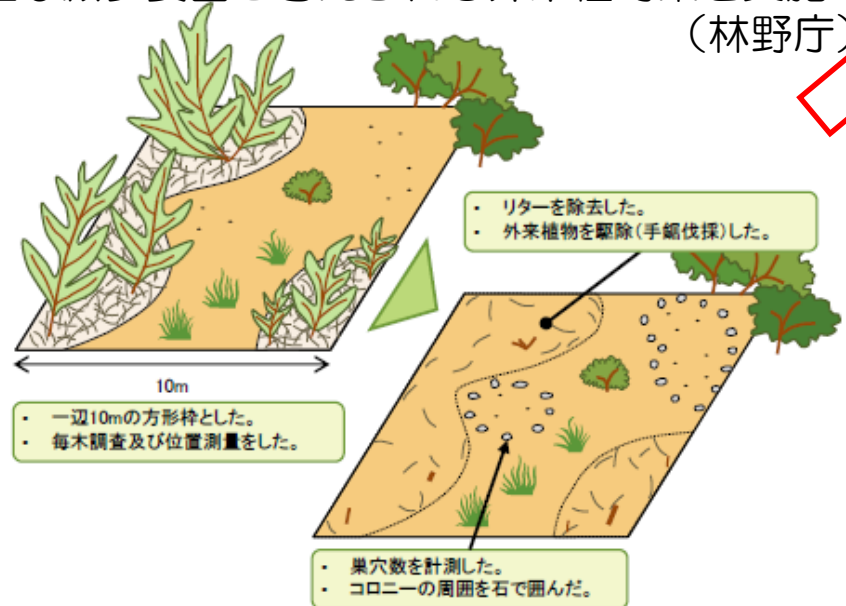
野生絶滅を回避するために今後検討されている対策



現在、内地で飼育繁殖を実施中

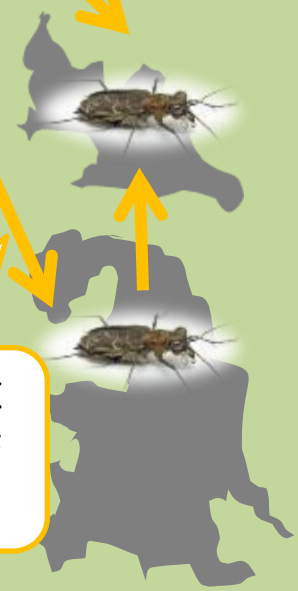
内地の飼育個体の兄島における試験的再導入

主な減少要因と考えられる外来種対策を実施中（林野庁）



それだけでは、野生絶滅を回避できない可能性が高い

内地の飼育個体を用いて父島の飼育を開始



②希少昆虫類の保全：オガサワラシジミの危機的状況

H26年春、生息状況が危機的であると判断し、緊急対応を実施

3月下旬 生息状況が危機的、緊急対応が必要

4月中旬 メスを捕獲・採卵（108卵）し、卵の飼育を開始（親は放蝶）

6月上旬 蛹まで育った18個体を親の捕獲地付近に戻す

1月現在 比較的生息状況は安定的

◎一時捕獲・採卵



- 野生下では、卵からの羽化率は数%
- 飼育により生存率を向上させ、より多くの成虫を野生下に戻す試みを実施

その他の主な取組



餌木の植樹



◎室内で飼育



◎蛹を野生に戻す



グリーンアノール対策



密猟の監視

②希少昆虫類の保全：兄島グリーンアノール対策（シナリオ）

2014/11/08時点 トラップ設置地点 稼働数 計35,801個(センサー含む)

◆Cライン

- ・分布域拡大に備えた昆虫生息地を保全するライン
- ・弟島への侵入リスク低減のため柵の設置を進める

◆囲い込み柵

ハンミョウ生息地において、柵の設置を進める



◆Bライン

南部高密度帯を拡散抑制するために防除柵を設置（H26全線完成予定）

◆検出確認エリア

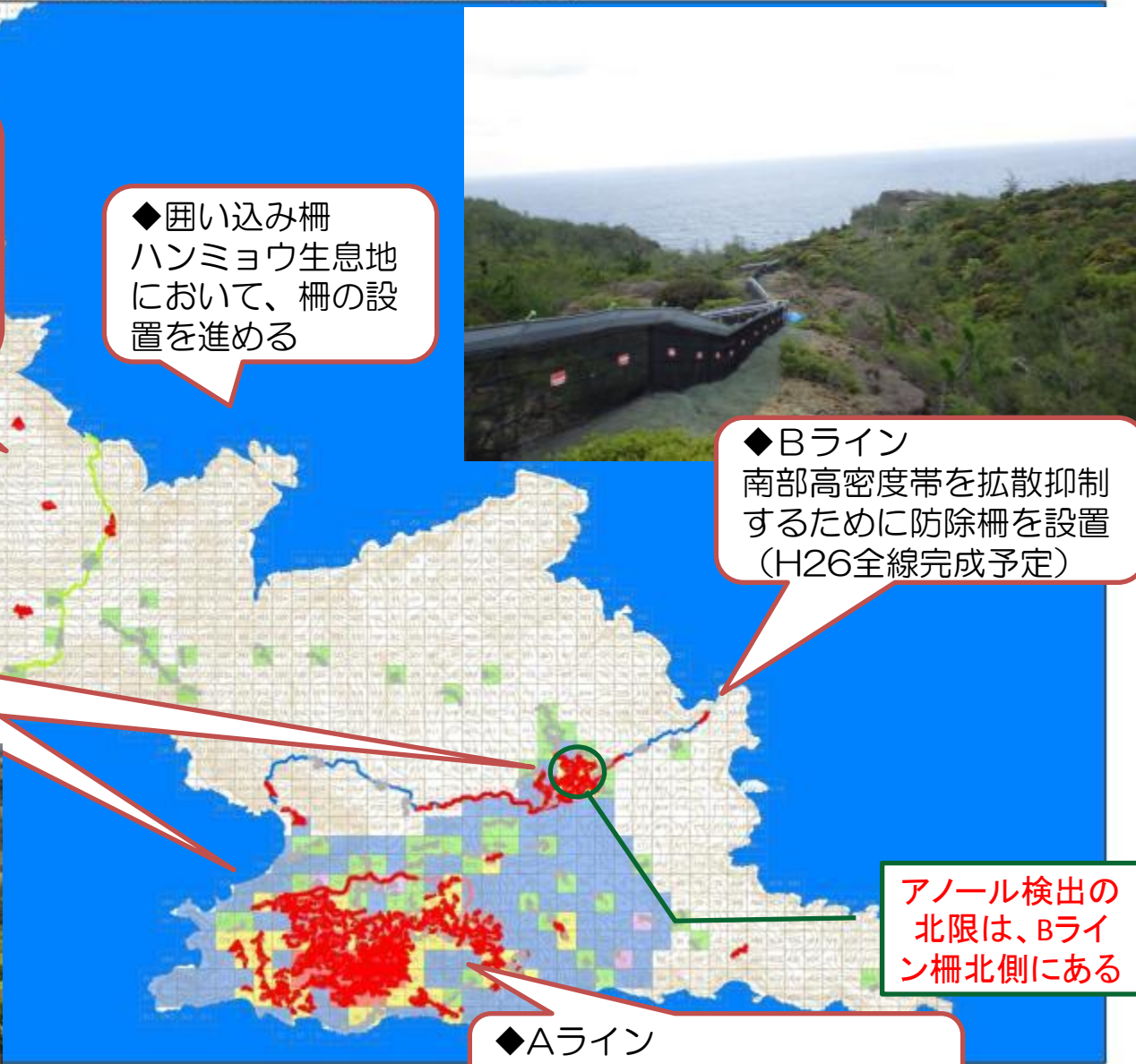
トラップによる捕獲。まずは、局所的な根絶達成の技術確立を図る

アノール検出の北限は、Bライン柵北側にある

◆Aライン

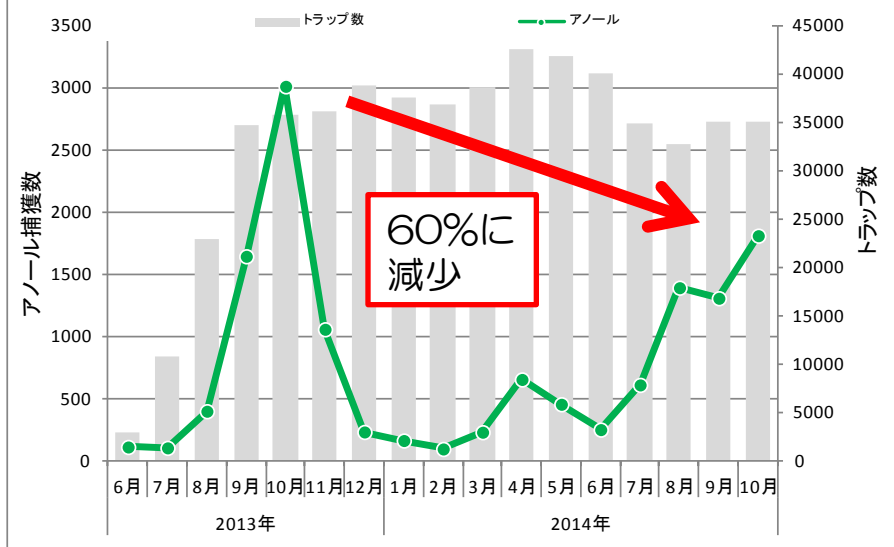
南部高密度分布域を拡散させない柵として維持・管理

1:20,000



②希少昆虫類の保全：兄島グリーンアノール対策（捕獲対策）

2014/11/08時点 グリーンアノール確認地点 計14,088個体 アノール分布面積 135.70ha



	H25年度	H26年度	計
オガサワラトカゲ	39,681	31,234	70,915
ヤモリ類	10,229	16,136	26,365
陸貝（生死区別せず）	269	501	770
アニジマイナゴ	114	204	318
オガサワラゼミ	記録対象外	962	962

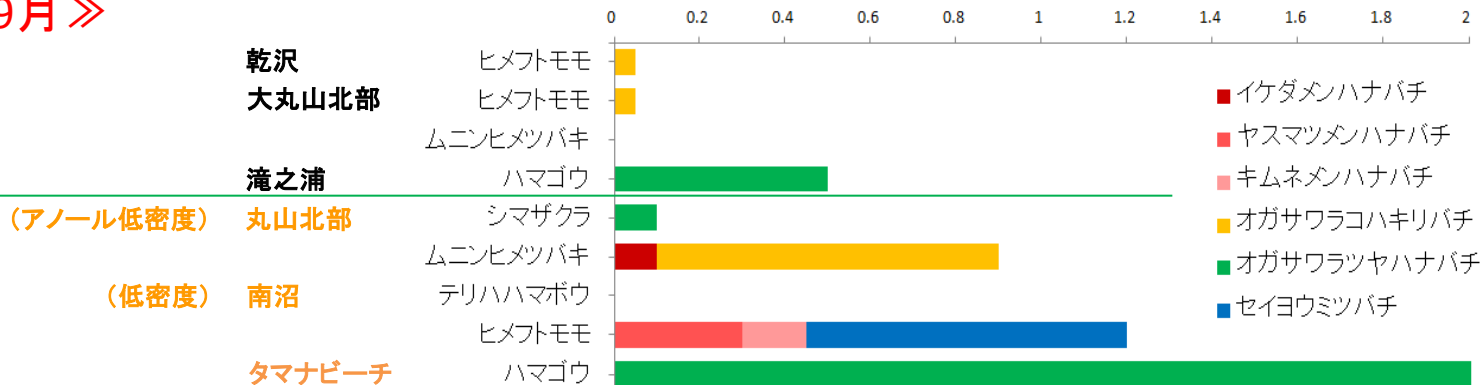


②希少昆虫類の保全：兄島グリーンアノール対策（生態系影響）

アノール分布確認の有無による顕著な差は見られていない。

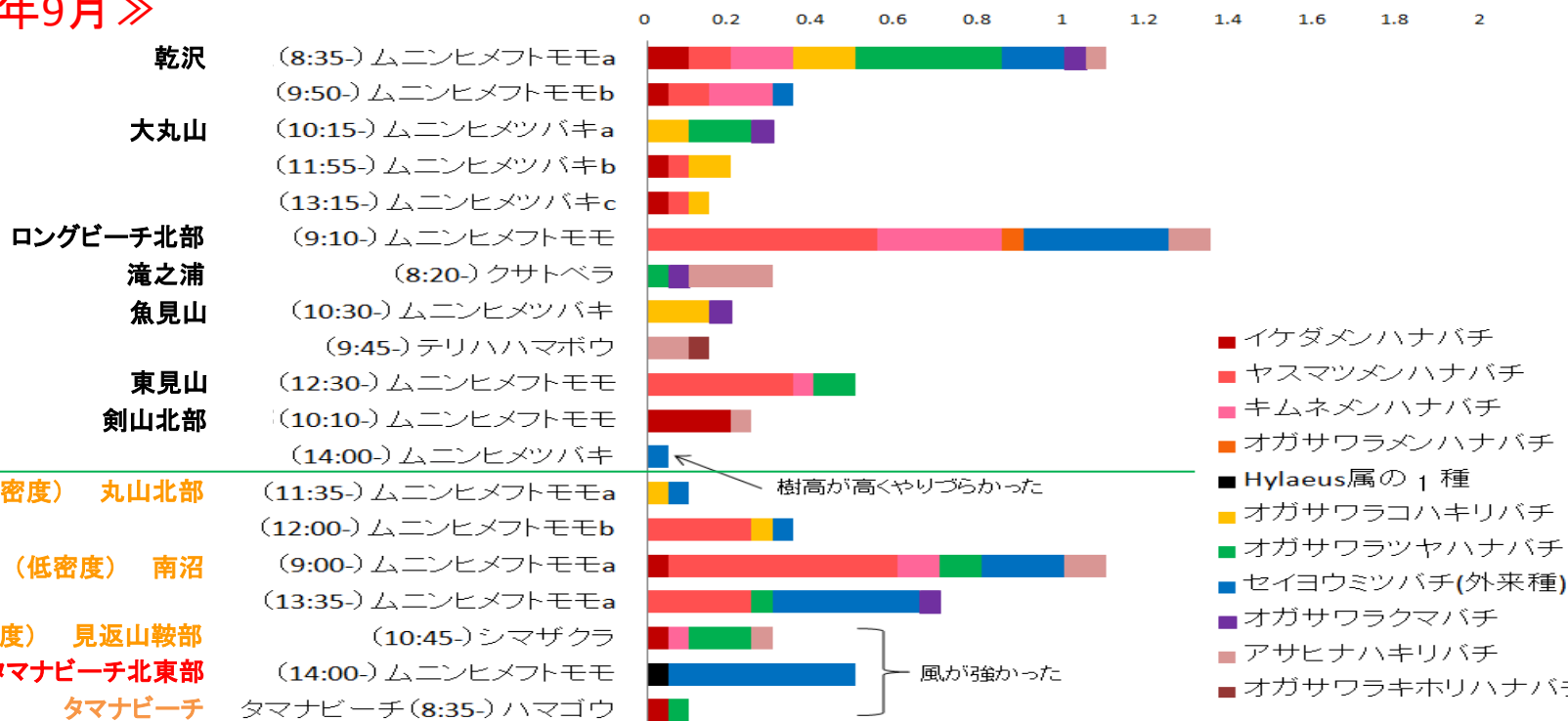
《2013年9月》

↑
アノール未検出
↓
アノール検出



《2014年9月》

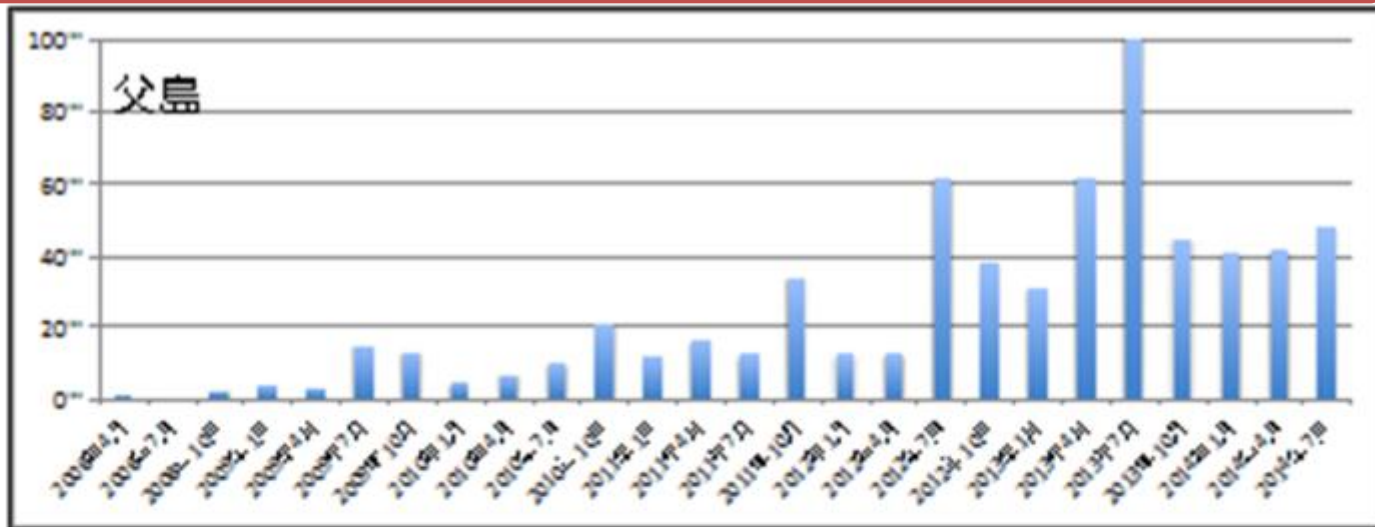
↑
アノール未検出
↓
アノール検出



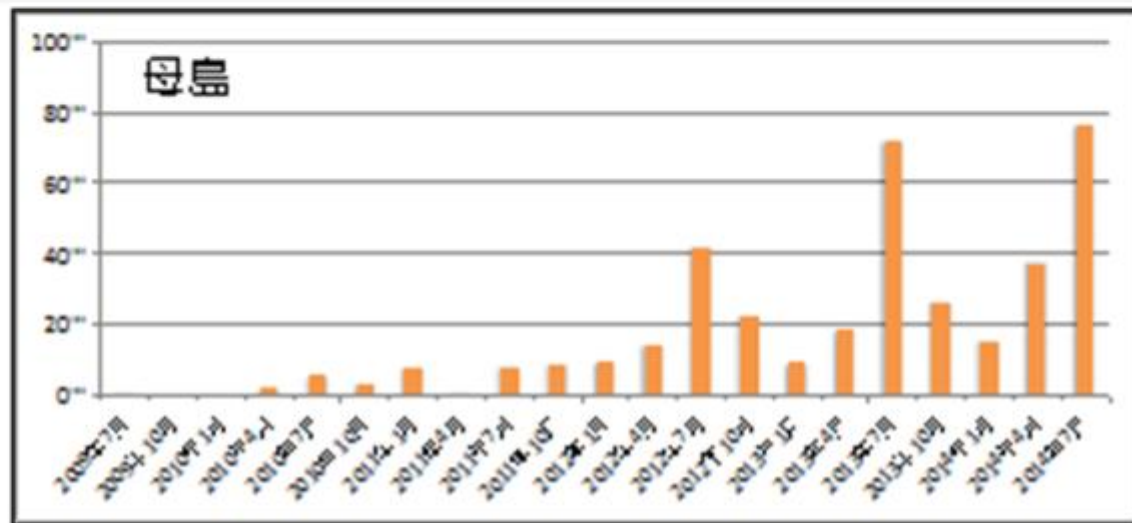
③哺乳類・鳥類の保全：アカガシラカラスバトの目撃状況)

父島、母島ともに目撃件数は増加傾向にある

目撃件数(回)



目撃件数(回)



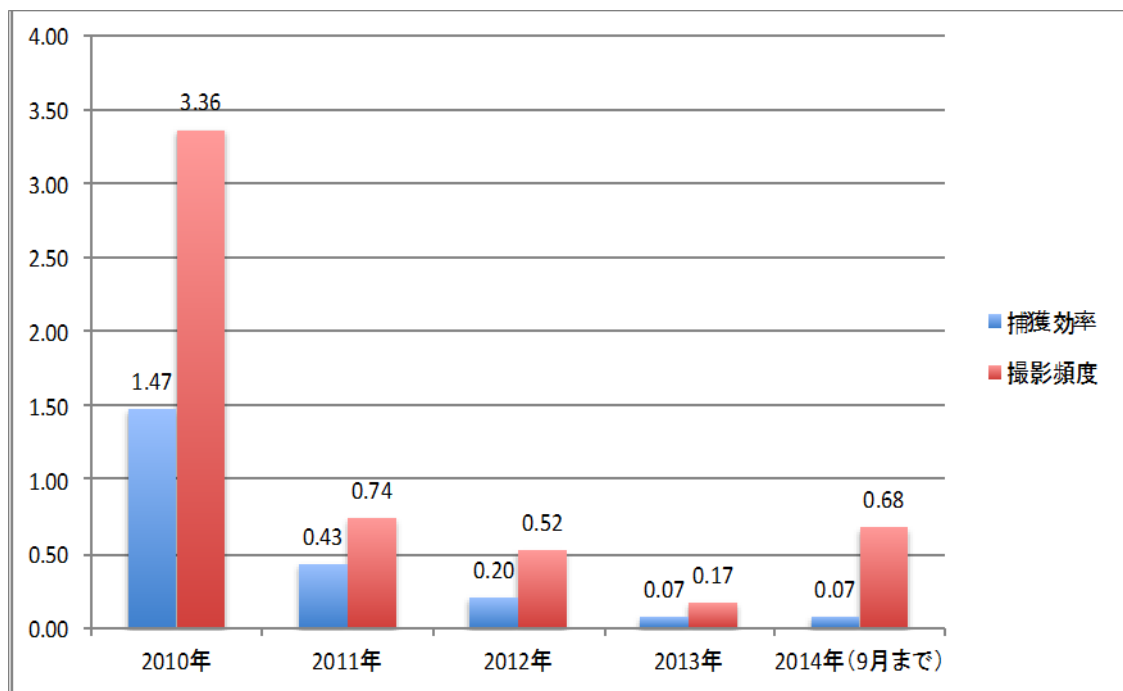
③哺乳類・鳥類の保全：ネコへの対応の状況

- ◆父島の山域でのノネコの捕獲が進んでいますが、今年度リバウンド傾向が見られています。
- ◆集落近くでのネコの対応も進んでいます。



東京都都獣医師会、小笠原海運、地域の協力を得て、捕獲ネコは内地搬送、馴化、里親へ譲渡

- ・捕獲して、島外へ搬出
- ・侵入防止柵によるハトの重要繁殖地の防除
- ・適正飼養



父島におけるノネコの捕獲効率と撮影頻度

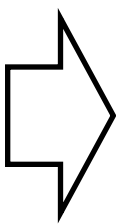
累計の捕獲頭数

年	父島	母島
2005年	3	4
2006年	10	2
2007年	11	6
2008年	10	3
2009年	19	4
2010年	64	47
2011年	53	24
2012年	21	36
2013年	6	45
2014年	5	32
合計	202	203

④希少植物の保全対策

短中期的に解決可能な課題を有している種

短期的に目標達成が困難であり、長期的視点で対策を進める種



両者は、同じ考え方では進められない。類型化し、対策の進め方を整理した上で、効率的に対策に着手していく

情報共有・関係機関の連携
(モニタリング結果や課題の情報共有)



昨年は、多くの結実が見られ、播種した種子から発芽も見られました



増殖技術の向上
(東京大学附属植物園と連携し、人工授粉の実施等により自然更新を補完している)

外来種駆除等による生育環境の改善

⑤地域との情報の共有（普及啓発事業）

1. 村民ボランティアによる外来種駆除作業（小笠原村、東京都）

平成13年度より主に南島での外来種駆除作業を村民ボランティア参加のもと行い、外来種の駆除作業を通して、小笠原諸島の特異な自然環境を劣化させず後世に残すため、保存・保護していくという意識啓発を行うと共に、参加する村民ボランティアの自然学習の場とする。

実施年度	実施日	参加人数	実施場所
平成25年度	H25.5.6	28名	兄島(小笠原村)
平成26年度	H26.10.22	21名	南島(東京都)

2カ年の実績



駆除作業の様子

2. 兄島視察会の開催（小笠原村）

実施年度	実施日	参加人数	実施場所
平成25年度	H26.2.1	28名	一般村民
平成26年度	H27.1.31	28名	一般村民



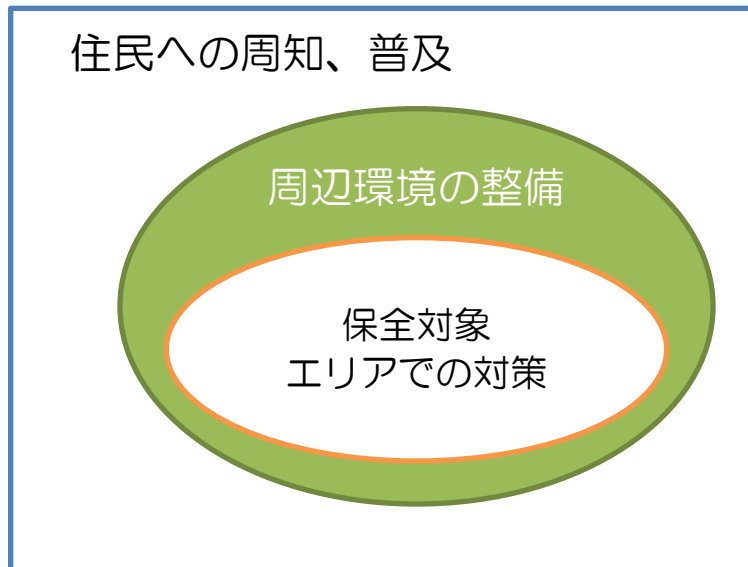
視察会の様子

3. 環境教育に関する取組（各機関）

- 学校教育との連携
- 社会人を対象とした取組
- 島外からの学生を対象とした取組

有人島での進め方は、いろいろ試してみることから始めています。

① 様々な取組を併せて行う（一斉取組）



一斉取組の概念図

保全対象エリア（生態系、農地、宅地等）

◆保全対象エリアでの対策

- 囲い込み
- 殺鼠剤の散布、トラップの設置
- ゴミの除去

◆周辺環境の整備

- 草刈り
- 轢死体の除去
- 殺鼠剤の散布、トラップの設置

◆住民・農家への周知、技術普及

- パンフレット、チラシ等の配布
- 相談窓口の設定

有人島でのネズミ対策の試行

役割分担の案 (簡易版)

「ネズミによる被害」
についての技術的な相談

民間

「生活環境へのネズミ被害」
についてのネズミ対策の技術的
な相談

農業に関する農家からの
ネズミ対策の相談

小笠原島しょ農協

「生態系へのネズミ被害」
についてのネズミ対策の技術的な相談

行政

相談

助言

相談

助言

村役場
建設水道課

相談

助言

村役場産業観光課

相談

助言

林野庁森林
生態系保全
センター

東京都小笠原
支庁土木課

報告

助言

東京都ねずみ防除指針
都民のためのねずみ防除副読本

支援等

環境省
小笠原自然保護官事務所

東京都島しょ保健所
小笠原出張所

東京都小笠原支庁産業課

連携

事務局会議

相談

助言

ネズミ対策検討会等専門家の会合

生態系保全管理WG

科学委員会(本会)

オガサワラオオコウモリの共生に係る地域課題（案）

<目標：人とオガサワラオオコウモリとの軋轢の解消>

1. 人とオオコウモリとの軋轢

- （1）オオコウモリが人に与える影響
- （2）人がコウモリに与える影響
- （3）ねぐらの管理
- （4）餌資源の確保

2. 小笠原オオコウモリに関する地域的な課題

オガサワラオオコウモリとの共生を図るため、

- 短期的には、人とオガサワラオオコウモリとの軋轢を解消するための取り組みを進める。
- 長期的には、オガサワラオオコウモリが在来生態系の中で生息できる環境を整えていく。

（＊）軋轢解消に向けた議論を進める上での課題として指摘されている事項

- 村民から広く意見をとる場を設定しないと、地域課題とは言えない。
- 農業者にアンケートなどで、広く声を聞き、現状把握をすることが必要ではないか。
- 直接農家と接する場に出て、声を聞く必要がある。
- オオコウモリは何頭まで許容できるのかなど、目標頭数の課題も議論するべきだ。

オガサワラオオコウモリとの軋轢解消に向けた試行

柑橘・果樹への被害が発生

〔施設設置箇所数・面積〕

24年度実績	3件	223㎡
25年度実績	4件	728㎡
26年度実績(予定)	11件	1,440㎡
27年度予定	10件	1,584㎡



果樹をネットで
囲んで守る



山の餌を増やし、
畑に向かわせない
ことも重要では？

父島小港：餌の枯渇しやすい冬の餌資源として期待される海岸植生再生



モクマオウの駆除



モモタマナの植樹

父島洲崎：在来植生の再生と、再生までの一時的な餌資源としての嗜好性の高い餌の確保



サンカクバナナの樹勢回復

外来プラナリア類の対策の試行



乳房山遊歩道入口
プラナリアセンサー板設
置地点の確認

評議平(農地周り)
プラナリアセンサー板設
置地点の確認

南崎
侵入防止柵設置候補
地の議論

視察地点図



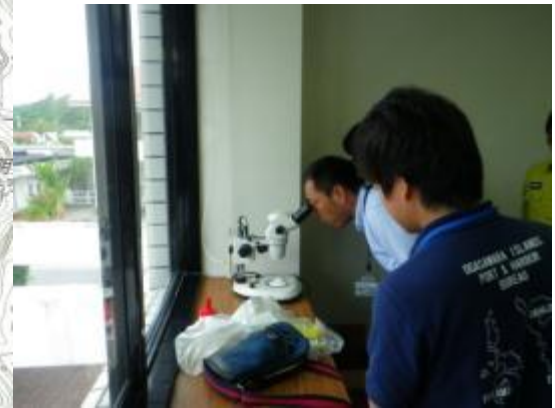
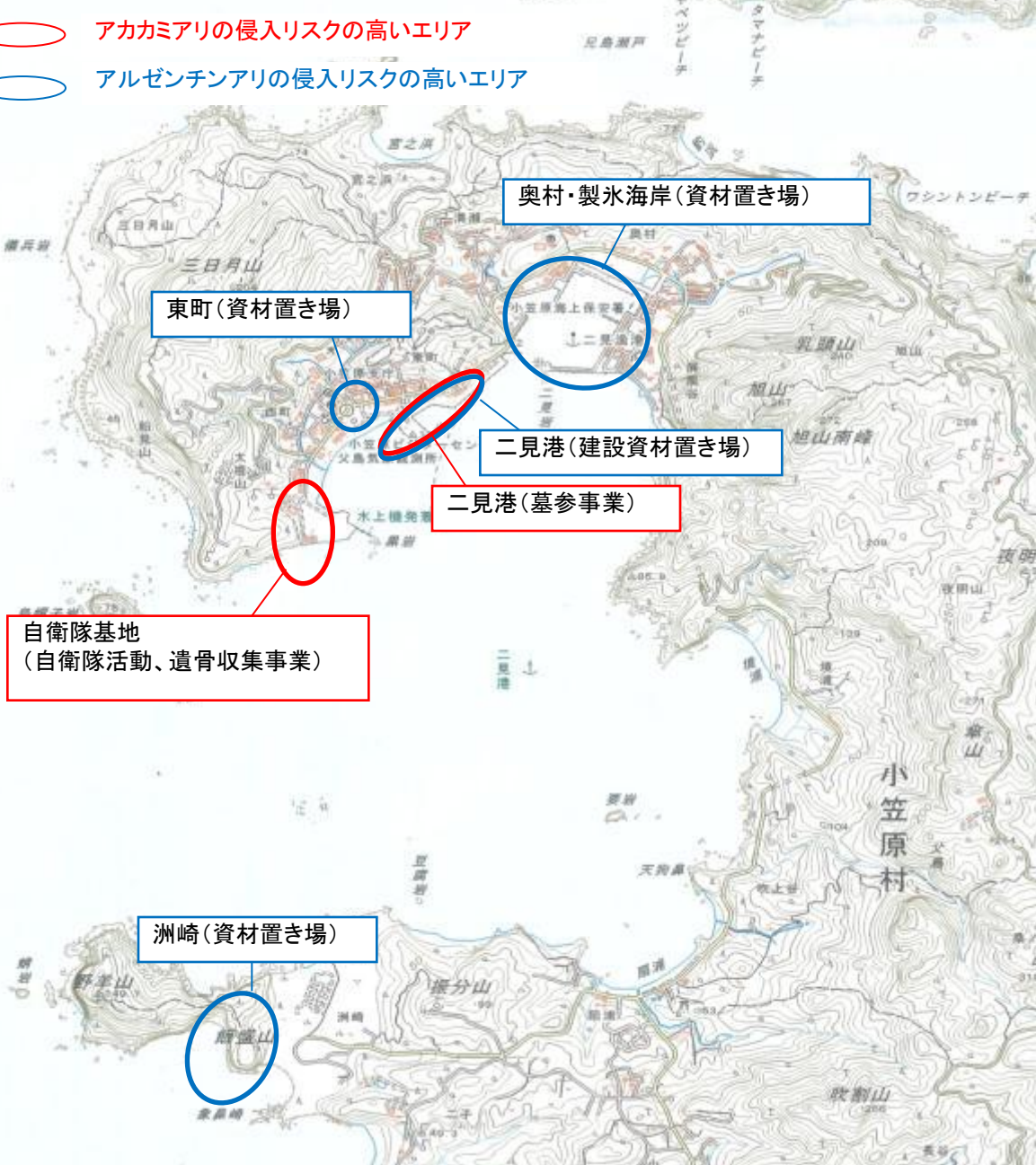
外来アリ類の対策の試行



アカカミアリの侵入リスクの高いエリア



アルゼンチンアリの侵入リスクの高いエリア



ツヤオオズアリ分布（環境省目視調査分、暫定）



H27年2月27日現在
目視調査により、ツヤオオズアリの調査を実施した。
+ 発見ポイント
○ 未発見ポイント

元地集落の他、飛び地的に蝙蝠谷周辺の路肩に見つかっている。山域付近では、蝙蝠谷、乳房山入り口、小剣先山入り口付近がある。
南崎ロータリー、中の平東港、周辺は今のところ見つかっていないが、調査地点数が少ないので評価できない。
未発見地点や、山域入り口付近は、今後、トラップによる調査を行う予定。

ツヤオオズアリ分布（東京都小笠原支庁、環境調査）

(1)これまで実施した環境調査結果（ハチ目アリ科）

道路改修事業(Dブロック)
H24～26 環境調査実施

道路災害防除事業(31斜面)
H26環境調査実施

道路改修事業(Aブロック)
H25 環境調査実施

道路災害防除事業(22斜面)
H25環境調査実施

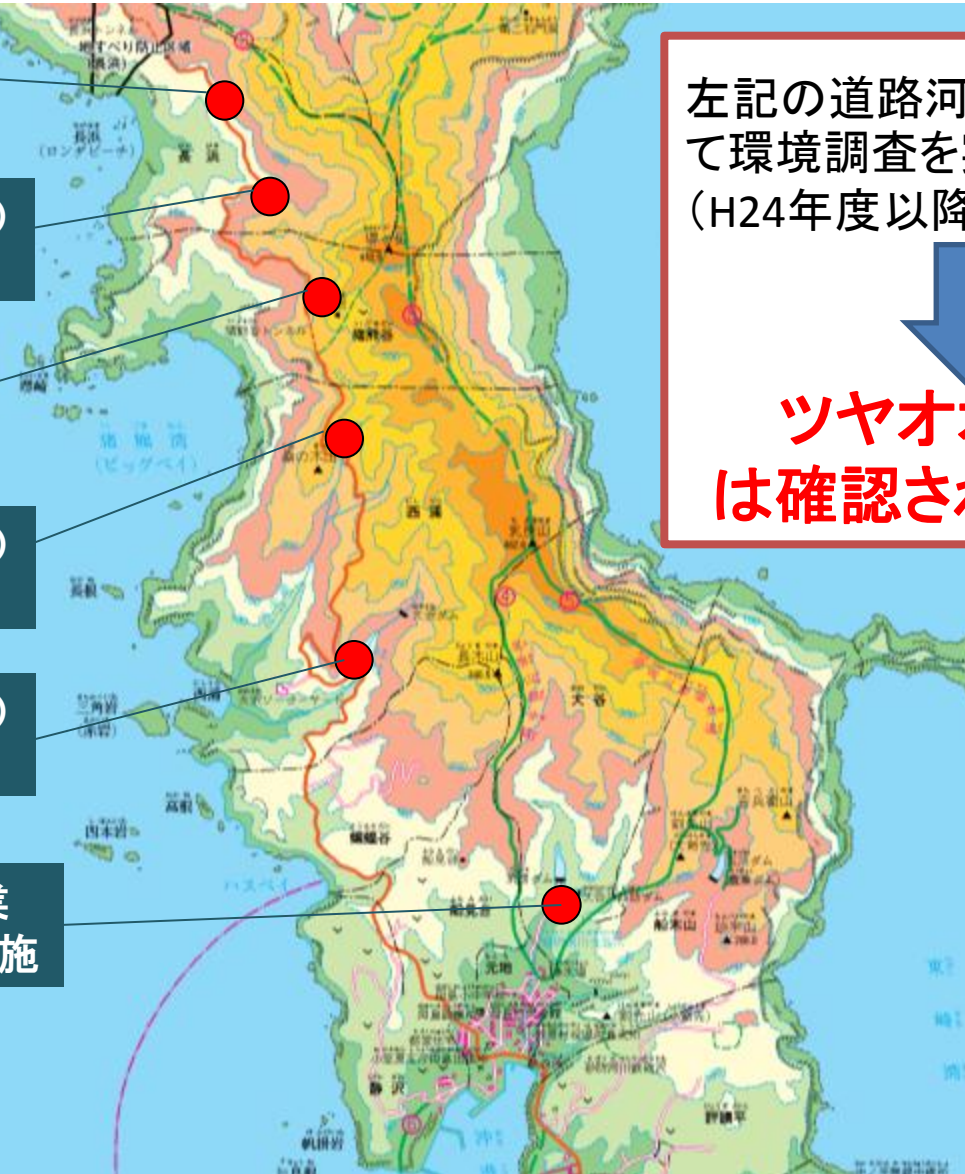
道路災害防除事業(16斜面)
H25環境調査実施

大谷川砂防事業
H25環境調査実施

左記の道路河川事業において
環境調査を実施
(H24年度以降)



**ツヤオオズアリ
は確認されていない**



(2) 今後の対応(案)【北進線道路改修事業】

北進線道路改修事業に関わる箇所 の分布調査を緊急的に実施

平成27年2月19日に実施した「北進線道路改修事業に係る専門家会議」において、道路改修事業に関連する箇所について現況の分布調査を実施する旨の報告を行った。

調査時期、調査箇所、調査方法等

詳細は今後関係機関と調整を行いながら決定する。

◆調査時期

アリの活動が活発になる3月頃から開始予定

◆調査箇所

工事箇所、資材置き場、資材搬入(沖港)など

◆調査方法

アノールトラップによる捕獲

